

式辞

記録的な暖冬だった今年の冬。しかし、立春を過ぎてから雪が何回も降るという例年にない冬でもありました。思い返せば、皆さんが中学校に入学した年もコロナ禍でこれまで経験したことのないスタートでした。でも、春は必ずめぐってきます。この早春の佳き日に、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、令和五年度の卒業証書授与式が挙行できますこと、この上もない喜びであり、厚くお礼申し上げます。

中学校三カ年の全課程を修了し、卒業証書を手にした二五八名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんに手渡した卒業証書はたった一枚の紙ではありますが、これまでの皆さんの小さな小さな積み重ねの証でもあります。下駄箱で靴をきちんとそろえて置く姿。掃除に一生懸命に取り組む姿。浅間中学校のよき伝統を行動で示してくれました。そんな小さな積み重ねができる素敵な皆さんのそばには、いつも支えてくれた仲間、家族、先生方がそっといてくれたと思います。今日はその方たちにぜひ、素直に「ありがとう」の言葉表現してくださいね。成長を喜び合うとともに、きっと皆さんがさらに輝くことと思います。

卒業という節目にあたり、みなさんに伝えたい言葉があります。村上春樹さんという作家の「ノルウェーの森」という小説の中に出てくる有名なワンフレーズです。

「深刻になることは必ずしも真実に近づくことと同義ではない」

人生では当然ですが、楽しいことばかりではありません。むしろ、楽しくないこと、思い通りにならないことの方が多いです。様々な「不安」や「悲しみ」、「怒り」などを感じることもあるでしょう。「悩む」ことも多いでしょう。何かの問題にぶつかることは必ずあります。そんなときに、思い出してください。深刻になることは、必ずしも解決には向かうとは限りません。肩の力を抜いて、周りの人に SOS を発信し、そしてほんの少しでいいので前へ進んでください。

保護者の皆様、お子様が本日立派に浅間中学校を卒業されますこと、心からお祝い申し上げます。また、これまでの本校の教育活動へのご理解とご協力に深く感謝申し上げます。世界では、紛争や戦争が起こっています。国内では、自然災害も毎年のように発生し、本当に予測困難な社会であります。これからのお子様の道のりも、山あり谷ありの遠い道のりでしょう。ぜひこれからもあたたかいお支えと励まし、ご指導をよろしく願いいたします。

「カーブ定規」を思い出してください。あなた自身のものさしを持って、学校教育目標「情操高く 知は深く」を胸に、人生を歩いて行って下さい。

結びに、ご来賓の皆さま、保護者の皆さま、在校生の皆さんとともに、卒業生の未来に幸多からんことをお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和六年三月十八日

佐久市立浅間中学校

校長 宮島卓朗